

	研究課題名	研究の概要	研究フィールド	研究代表者			他の構成メンバー		
				所属	職	氏名	所属	職	氏名
暮らし分野 (4課題)	復興計画策定と新たな地域社会構築のための多縁コミュニティ形成に向けた実践的研究	独自の視点を持つ地区外からの支援活動、県内の典型的な活動・ネットワーク、地域のハード・ソフトの多面的資源の発掘などから、今後の復興計画策定や新たな地域社会構築のための母体となり得る緩やかな共同体(多縁コミュニティ)を形成していくために、実践活動、参加・ヒアリング調査などを行う。その中で、「記憶」と「希望」を分かち合う場づくりと、その意義・効果・課題等の考察を行う。	山田町 大槌町 大船渡市 陸前高田市 その他	総合政策学部	教授	倉原 宗孝	—	—	—
	被災地における社会的孤立の防止と生活支援型コミュニティづくり	仮設住宅においては、高齢者のみならず中高年等も含めた孤独死の増加が懸念されている。また、仮設住宅の入居者等は、買い物等の生活が不便な状況にある。これに対処するために、これまで実証してきた社会技術を被災地に実装する方策を検討し普及に寄与することが目的である。固定電話がある世帯では「おげんき発信」を活用し、固定電話がない仮設住宅等では、見守りセンサーや血圧などの健康データを新しい無線通信技術によって送信する方式を検討する。仮設住宅の集会所等のみまもり拠点とし、相互扶助の関係を構築できるように支援する。具体的には「話したい」ボタンを活用し、買い物や送迎等の生活支援策に結びつける。	野田村 宮古市 大槌町 釜石市 盛岡市 その他	社会福祉学部	教授	小川 晃子	社会福祉学部	教授	狩野 徹
							社会福祉学部	准教授	細田 重憲
							看護学部	講師	千田 睦美
							ソフトウェア情報学部	准教授	佐々木 淳
「野田村被災者のイメージマップによる参加的な食の再構築—岩手県民の今後の食生活の方向性をデザインする試み」	イメージマップにより分析するという手法を用いて、対象者自身に自分が今までの営んできた食生活の特徴や、これからの食生活の営みの可能性をみつめ、検討してもらう。またイメージマップを描くことにより、たとえば食生活の偏りや、日々の食生活の営みで大切にしていること、大切にしなければいけないことを、対象者自身に気づかせることができ、将来的な食生活の構想を組み立て可能にすることが期待できる。	野田村	盛岡短期大学部 生活科学科	准教授	乙木 隆子	福岡大学医学部	教授	守山 正樹	
						福島大学システム 理工学郡	准教授	永幡 幸司	
						共生システム部	教授	山本 玲子	
						尚絅学院大学 健康栄養学部	助教	松本 絵美	
						盛岡短期大学部	助教	笹田 怜子	
被災地域における複合型福祉拠点に関する基礎的研究	東日本大震災の被災地において、高齢者等に配慮した仮設住宅の設置について検討が始まっているが、高齢者等の安心した日常生活を中・長期的に支えるためには被災者向け住宅と高齢者、障害者・子育て世帯等にも対応する福祉サービスや医療等を付帯した複合型福祉拠点に関するあり方についての検討が必要であると思われる。そこで、本研究では東日本大震災における岩手県沿岸地域をフィールドとし、復興段階を意識し、新たなまちづくりと連動した複合型福祉拠点の実践的な検討と、今後のあり方を提言することを目的とする。	大槌町	社会福祉学部	教授	宮城 好郎	社会福祉学部	教授	狩野 徹	
						社会福祉学部	准教授	藤野 好美	
						社会福祉学部	講師	宮寺 良光	